



令和5年度 福島県ZEB化改修モデル事業

『ZEB』104% 福島ミドリ安全株式会社 福島支店 OPEN

電源自立型高効率空調
GHP (2F)

太陽光フレキシブル
モジュール

ガラス一体型
太陽光発電

再生リチウムイオン
蓄電池

BEMS盤

アルセコ外断熱

V2Xシステム

FCEV営業バン
(水素自動車)

ガラス一体型
太陽光発電

環境力・防災力・安全力を最先端技術で (AR・VR・MR) で体感学習する 環境GX (グリーン・トランスフォーメーション) 施設

FCEV(水素自動車)・EV給電⇒2分で完成 動く【災害・防災対策エアートント】

動く【災害・防災対策エアートント】は、FCEV、EV、PHEV車両(※移動体電力)や可搬型蓄電池の活用により、災害時に活用されます。また、災害時の避難所として活用されます。



MR (ミクスト・リアリティ) 体感機器 VR (バーチャル・リアリティ) 体感機器

- ・MR (ミクスト・リアリティ) 技術活用により、現実空間と仮想空間を融合し、360度どんな視点も映像技術を3D体感できます。
- ・VR (バーチャル・リアリティ) 技術活用により、五感を疑似再現、視覚・聴覚・触覚・嗅覚を刺激し、危険感受



着るだけでCO2削減、地域ブランド型 【森林吸収型Jクレジット】

Jクレジットとは、高効率の省エネ機器導入、再生可能エネルギーへの燃料代替、森林吸収が挙げられ、これらはCO2削減分をJクレジットとしての新たな環境価値へと転換されます。弊社では森林吸収型Jクレジット付商品(ユニフォーム、ヘルメット・シューズ等)の販売を通じて、「着るだけ、被るだけ、履くだけでCO2を削減する」カーボンオフセット事業に取り組んでおります。



ZEB化改修モデル施設『ZEB』104%

令和5年度福島県ZEB化改修モデル事業補助金を受け、築30年の建築物のZEB化(『ZEB』104%)を達成した省エネ・創エネ技術をご紹介致します。

太陽光発電(フレキシブルモジュール、ガラス一体型太陽光発電)

屋上には、建物へ荷重負担をかけない、厚さ2.5mmの架台が不要なフレキシブルパネルを採用、窓にはガラス一体型の太陽光発電AGC「サンジュール」を採用し、事務所全体が再生可能エネルギーによる自立電源により稼働します。

移動体電力®×V2X×車載用リユース蓄電池

V2X(充放電機能付PCS)および車載用リユース蓄電池を設置しており、非常時はEV、FCEV(水素自動車)、PHEVから建物へ給電することができます。(※三相V2Xの場合は、業務用空調・業務用冷凍冷蔵庫・エレベーター・給水ポンプ等にも給電することが可能です。)

自立発電型ガスヒートポンプエアコン

2Fのガスヒートポンプエアコン(GHP)は自立発電機能を有しており、停電時はプロパンガスの発電により電源を確保し、空調を稼働させることが可能な施設です。

巨大液晶モニター設置の60名集客可能なセミナー&レセプション施設

・福島県に3台しかない縦2m×横3.6mの大型モニターを設置(内1台は福島ミドリ安全 いわき支店)。約60名の集客が可能なセミナー室や、約30名が収容できる大会議室や展示スペースを貸出し、地域の企業や団体、環境・安全講習会・会議(理事会・役員会)・セミナー等の開催が可能。地域活動を行っているNPOや大学等の研究・活動発表や地域Cafe、コ・ワーキングスペース利用も検討中。

動く防災エアートント・美味しい防災食の展示と試食スペース

・線状降水帯や大規模災害発生時に、いつでもどこでも設置可能な可搬型蓄電池により短時間で立ち上げが可能な 大型 防災テント(車載コンパクト 収納可能)の実演・展示。※緊急対策本部、防災本部、救急感染症対策本部、避難所、安全・環境イベントスペース他
・オプションで空調(冷暖房・除湿)を設置することも可能。コンパクトに収納し車載に積載して防災拠点に運ぶことができます。また、防災備蓄商品として美味しい防災食をご紹介展示、試食スペースも完備しております。

■設備・規模 ①ガラス一体型太陽光発電 ②アルセコ外断熱 ③太陽光フレキシブルモジュール
④BEMS盤 ⑤電源自立型高効率ガス空調システムGHP (2F) ⑥V2X(充放電付PCS)単相6kW
⑦高効率空調システムEHP (1F) ⑧全熱交換器 ⑨再生リチウムイオン蓄電池(15kWh)

福島ミドリ安全株式会社 福島支店

代表取締役社長 白石昇 央
福島支店長 丹治洋 輔

福島県福島市館ノ前14-2 TEL.024-534-7164 FAX.024-531-0309

福島ミドリ安全は、2010年から豊かな森に囲まれた高知県津野町で、森林の間伐に取り組んで来ましたが、それは、計画的に木を伐採することにより、森林の光合成が促進され、より多くの二酸化炭素を吸収するからです。まだカーボンニュートラルなどの言葉が一般的でなかった時代に、多くの社員が高知県を訪れ伐採に携わりました。現在はその森林の一角を「龍馬の森」と言い、私たちは今も間伐を続けています。

